

1. 評価結果概要表

作成日 2007年9月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0872100482
法人名	株式会社 テンダーケアジャパン
事業所名	ケアホーム テンダーの杜つだ
所在地 (電話番号)	茨城県ひたちなか市津田1953-1 (電話)029-354-1733

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年9月20日	評価確定日	平成20年1月28日

【情報提供票より】(19年8月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤7人, 非常勤8人, 常勤換算	11.0人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

(4)利用者の概要 (8月31日現在)

利用者人数	15名	男性	6名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 88.1歳	最低	78歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	岡田クリニック・水戸志村病院・薄井歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の一角に、木造の暖かな雰囲気のある平屋の建物で、玄関廻りには広々としたテラスが設置されている。テラスでは、利用者と職員が茶話会などを催し、家庭的な雰囲気が強く感じられた。また建物の廻りには、桜の木が植え込まれ、小さな花壇と一緒に季節の草花に囲まれていて季節を感じられるような雰囲気作りの工夫が見られる。また職員の教育に対し非常に積極的であり、会社内で行われる職員教育システムは特に努力・工夫され理念に沿ったケアの提供が、充実かつ統一的に提供できるよう配慮されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、診療記録に関する改善が提示され、診療記録に関し職員間で話し合い個人記録に残すよう工夫し保存できるようになっている。またケアプランについても現在進行形で改善に向け努力されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員が、外部評価項目に対し積極的に読み込み、職員に関しては評価項目を読むことにより、新しい気づきやケアに対する方向性の修正など多くの項目に対し検討し改善出来るよう努力されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を開催し、その内容を議事録とし次回への参考として保管し運営推進会議への取り組みに活かされている。今後は、家族会などを作り、家族の本音を受け入れる体制に積極的に取り組み、今後の更なるケアの向上への取り組みが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情意見箱を設置しているが、家族や関係者からの意見を受け容れるまでには至っておらず、今後の設置への工夫や取り組みに期待される。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会や地域施設との連携・関わりを持つように努力されている。周辺の学校や養護学校などとの関わりを持ち、運動会などへ招待されたり、自治会の祭りに参加したりと積極的に関わりを持つよう努力されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社全体で取り組めるよう理念を掲げている。玄関入ると見やすい位置に理念を掲げ利用者および家族、地域住民に理解してもらえるよう配慮している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	生活をする場としての提供理念を掲げ、利用者の立場になった時の視点という考え方を管理者自ら実施し、職員への理念の啓発に心がけている。職員も生活を重視する場という共通理解を持ちケアを提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への参加、ボランティアの参加を多く取り入れ、地域との連携や交流を深める工夫がある。また自治会や近隣の養護学校などの運動会への参加なども行い地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を管理者が理解し職員に対し啓発している。自己評価を全体で取り組む事により、ケアの方向性や新しい気づきを得て、ケアの向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度3回今年度8月に開催の実績がある。会議のプログラム内容について議事録とし次回の会議の課題としている。会議出席者には、家族代表の他、利用者からの代表出席もあり利用者からの意見を取り入れるなど独自の工夫が見られた。		

茨城県 ケアホームテンダーの杜つだ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	生活保護担当者及び高齢福祉課などの連携を、直接行政に足を運ぶ事で密にしている。直接担当者や行政との関わりを持つように努力されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	その都度電話連絡等を用い家族に連絡している。また面会時などには、必ず家族とのコミュニケーションを取るようになっている。	○	今後計画段階にある、ホーム便りなどを積極的に取り入れ、家族との連絡や利用者の普段の状況や生活場面での変化など定期的に報告できるよう工夫されたい。
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情意見箱などを設置し、家族からの意見や苦情を受け入れる体制がある	○	今後は意見箱以外にも気軽に家族が意見をいえるような工夫をし積極的に意見や苦情を受け入れる体制を工夫されたい。
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の結婚、出産による退職があったが、入れ替えや配置の転換など利用者の混乱を避ける上でも最小限にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	独自の工夫があり、年末に社内全体のケアのテストがあり筆記テスト実技テストを専門家の監督の下行い、その成績により表彰される仕組みがある。ケアの向上と志気の向上に良い取り組みと考えられ今後も継続して頂きたい。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	月に1度の同業者との交流を持ち意見交換を行っている。	○	近隣の同業者などとの意見の交換や利用者の交流会など独自に工夫され、積極的な関わりがもてるよう努力されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、ケアマネージャーや家族との連携を密にし、利用者が混乱無く入居できるよう配慮されている。入居前にデイサービスや体験利用などの提供も可能になっている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者との関係を維持し普段の会話や生活場面の中から利用者を提供する立場に置いたり喜怒哀楽を共にし、支え合う関係を保てるよう工夫している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向や思いを把握し、本人と話し合いながら役割を見つけ利用者が快く活動できるよう、ほどよい役割の設定がある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人より意見をもらい介護計画に反映出来るよう努力している。	○	現在検討中でもあるが、職員の気づきや意見など積極的に記載された状況にある。それらを中心に利用者のケアプランに反映できるよう工夫されたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の現状を把握し、その利用者の個別性をもったケアプランの見直しが定期的におこなわれている。		

茨城県 ケアホームテンダーの杜つだ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が自然にかつ馴染んで入居できるよう、家族の宿泊や体験など施設独自の多機能性を活かした支援がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望するかかりつけ医への提供および連携病院との24時間体制での連絡確保そのほか同施設内の看護師との連携が確保されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療への依存度および家族の意向を考慮した上で終末期への受け入れは可能な体制を取っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は、家族の面会などで漏洩がないよう事務所での保管を徹底している。また記録時などは、名前などの情報が見えないよう工夫し記録するようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事などの時間を大まかに設定している以外は、利用者の意向や希望を尊重しサービスの提供に努めている。		

茨城県 ケアホームテンダーの杜つだ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	休日以外は、給食システムを導入し食事の提供を行っている。配膳や下繕は利用者に手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、ある程度決めているがその都度利用者の希望に応じられる様に工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の一人一人に合わせた、軽作業や朝礼などで挨拶をして頂けるような、配慮をし利用者の役割をもって頂いている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人の意向や希望を受け外出の支援を行っている。また外出に拒否的な利用者も、ゴミ出しなどの流れから散歩などに移行するなど個々に応じた外出への支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠のないケアを提供している。外への出入りに関しては利用者の意思に任せ、事故の無いように職員の見守りを徹底している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもとで避難訓練や救急処置法などの研修を自施設で行い啓発している。		地震などの大規模災害に対しての、備蓄品など今後検討されたい。

茨城県 ケアホームテンダーの杜つた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は個人記録に記載され管理されている。又医師からの指導などにより水分の摂取量を計測する利用者に関しては、経時的記録にし管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、広々と明るく両側に畳敷きの空間があり洗濯物などが置かれ家庭的な共有空間を提供している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、家族などの協力もあり利用や個別の空間として設定され、内側からの施錠も可能になっている。写真や花位牌などを置く利用者もあり馴染みの空間が感じられる。		